

2018 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科  
修士課程 2 年制 入学試験

【 専門科目・**共通問題** 】

**問題冊子**

試験開始まで次の注意事項を熟読すること。

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子は開かないこと。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答は問題の指示に従い解答用紙の所定欄に黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入すること。  
【重要】問題の指示に沿った方法で解答用紙に解答を記入すること。
4. 次の解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を必ず記入すること。

「共通問題」の解答用紙（1枚）

解答用紙の所定欄に受験番号・氏名の記入がない場合は採点対象としない。

5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

■ 共通問題

はじめに専門科目「共通問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。試験開始から 45 分経過した時点で一度試験を中断し、「共通問題」の解答用紙を回収します。回収後「選択問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。

■ 選択問題

「共通問題」の解答用紙を回収後、「選択問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。配付の完了後に試験を再開し、残り 45 分の試験時間を設けて、全体で 90 分を確保します。

6. 出願した研究領域の選択問題の中から 1 問を選択し解答すること。2 問以上解答した場合は採点対象としない。出願した研究領域以外の問題を解答した場合も採点対象としない。
7. 各研究領域の選択問題のページ番号は、試験再開後に「専門科目・選択問題」問題冊子 p.1 の目次を参照すること。
8. 【重要】選択した問題で指定されている解答方法に従って解答すること。
9. 選択した問題の番号を、解答用紙の「選択した問題番号」欄に必ず記入すること。「選択した問題番号」欄に記入がない場合は採点対象としない。

【記入例】A-1 の問題を選択した場合

A - 1

■ 解答用紙の回収【重要】

10. いかなる場合でも以下の解答用紙を必ず提出すること。
  - ① 「共通問題」の解答用紙（1枚）…試験開始から 45 分経過した時点で回収
  - ② 「選択問題」の解答用紙（1枚）…共通問題の解答用紙回収後、配付し、専門科目すべての試験が終了した時点で回収
11. すべての試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

以上

2018 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科  
修士課程 2 年制入学試験  
【共通問題】問題冊子

---

目次

I. 共通問題 . . . . 2~3

選択問題の問題冊子と解答用紙は、共通問題の解答用紙回収後に配付する

# 2018 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科 修士課程 2 年制 入学試験問題

## 【共通問題】 1 / 2

---

【解答用紙の罫線に沿って横書きで解答すること。設問ごとに定める行数指定に従って解答すること。ドットは無視してもよい。】

表は、内閣府による「平成 28 年 高齢者の経済・生活環境に関する調査」の結果の抜粋である。この調査は平成 28 年 6 月に行われ、調査対象者は全国の 60 歳以上の男女個人（施設入所者は除く）2,920 名であり、回収数はこのうち 1,976 名（回収率 67.7%）だった。対象者が居住している都市の規模に基づき、集計されている。

### 都市規模

大都市：東京 23 区・政令指定都市

中都市：人口 10 万人以上の市

小都市：人口 10 万人未満の市

町村：郡部（町村）

なお、市町村の別は平成 28 年 4 月 1 日現在市政施行によっている。

- 1 表から、都市規模による生活環境の違いを読み取り、10 行程度で説明しなさい。
- 2 どれか 1 つの都市規模を選び、1 で述べた特徴に基づいて、そこで生活している高齢者が現在あるいは将来的に直面する可能性のある問題を、その問題が生じた背景と共に 10 行程度で説明しなさい。
- 3 2 の問題の解消に向けた対策を考えるために、必要な調査を計画しなさい。さらに、その調査結果に応じて考えられる対策を立てなさい。以上をあわせて 10 行程度で説明しなさい。その際、適宜、図表を用いてもよい。ただし、図表は文字数としてカウントしない。

なお、解答については、(a)内容に誤りがないか、(b)扱われている情報に過不足はないか、(c)表現に工夫がなされているか、(d)数量が示す意味について深く分析されているか、(e)複合的観点に基づく論述がなされているか、などの観点から評価されるものとする。

---

# 2018 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科 修士課程 2 年制 入学試験問題

## 【共通問題】 2 / 2

表 高齢者の経済・生活環境に関する調査結果

	都市規模				(%)
	大都市 (n=440)	中都市 (n=816)	小都市 (n=502)	町村 (n=218)	
(1) 日常の買い物の仕方 (1つ選択)					
自分でお店に買い物に行く	78.0	77.3	73.7	71.1	
移動販売等を利用している	—	0.1	0.2	1.4	
宅配サービスやネット販売を利用	2.3	2.1	1.6	1.8	
家族・親族に頼んでいる	18.9	19.0	23.5	23.9	
知人・友人や近所の人に頼んでいる	—	—	0.2	0.5	
ヘルパーや家事代行に頼んでいる	0.7	0.9	0.4	—	
(2) (1)で「自分でお店に買い物に行く」を選んだ人のみ対象：買い物に行く時の主な手段 (1つ選択)					
徒歩	60.1	26.9	14.6	18.7	
自分で自動車等を運転	32.9	57.7	68.1	67.1	
公共交通機関	3.2	2.5	1.6	1.3	
家族等が運転する自動車やタクシー	6.4	6.3	8.1	9.7	
(3) (1)で「自分でお店に買い物に行く」以外を選んだ人を対象：その手段を選んだ理由 (複数選択可)					
距離が遠い・時間がかかる	5.2	16.8	18.9	15.9	
交通手段がない・交通が不便	3.1	8.1	9.8	4.8	
体力的にお店に行くことが難しい	21.6	28.1	31.1	42.9	
買いたいものを買うため	15.5	13.5	8.3	6.3	
気軽だから	17.5	18.9	15.9	30.2	
買い物を頼める者が他にいない	10.3	8.6	12.9	7.9	
(4) 徒歩圏で利用できる施設 (複数選択可)					
コンビニエンスストア	86.1	69.5	63.9	49.1	
スーパーや商店	81.4	61.8	51.6	50.9	
医療機関	79.1	58.1	54.8	33.9	
デイサービスなどを利用する福祉施設	47.7	31.7	34.3	27.1	
公園	90.2	66.9	55.6	37.2	
公民館・集会所	68.9	69.1	77.5	63.3	
郵便局や銀行等の金融機関	73.2	56.9	54.2	31.7	
市役所等の役所	15.9	17.6	21.5	11.9	
(5) 居住地域で今後不便を感じる可能性があると考えるもの (1つ選択)					
日常生活に必要な都市機能がない	10.9	17.0	19.1	32.1	
公共交通機関が整っていない	8.6	13.1	17.1	17.4	
公園や緑地が少ない	0.7	1.6	2.0	0.5	
歩道が確保されていない	3.9	4.4	4.2	5.0	
治安がよくない	0.9	0.9	0.6	0.5	
近隣に相談などをする人がいない	7.0	5.1	2.4	1.8	
不便を感じるものはない	63.9	53.7	52.2	40.4	

注：「—」は、回答者がいないことを示す。

出典：内閣府「平成28年 高齢者の経済・生活環境に関する調査」

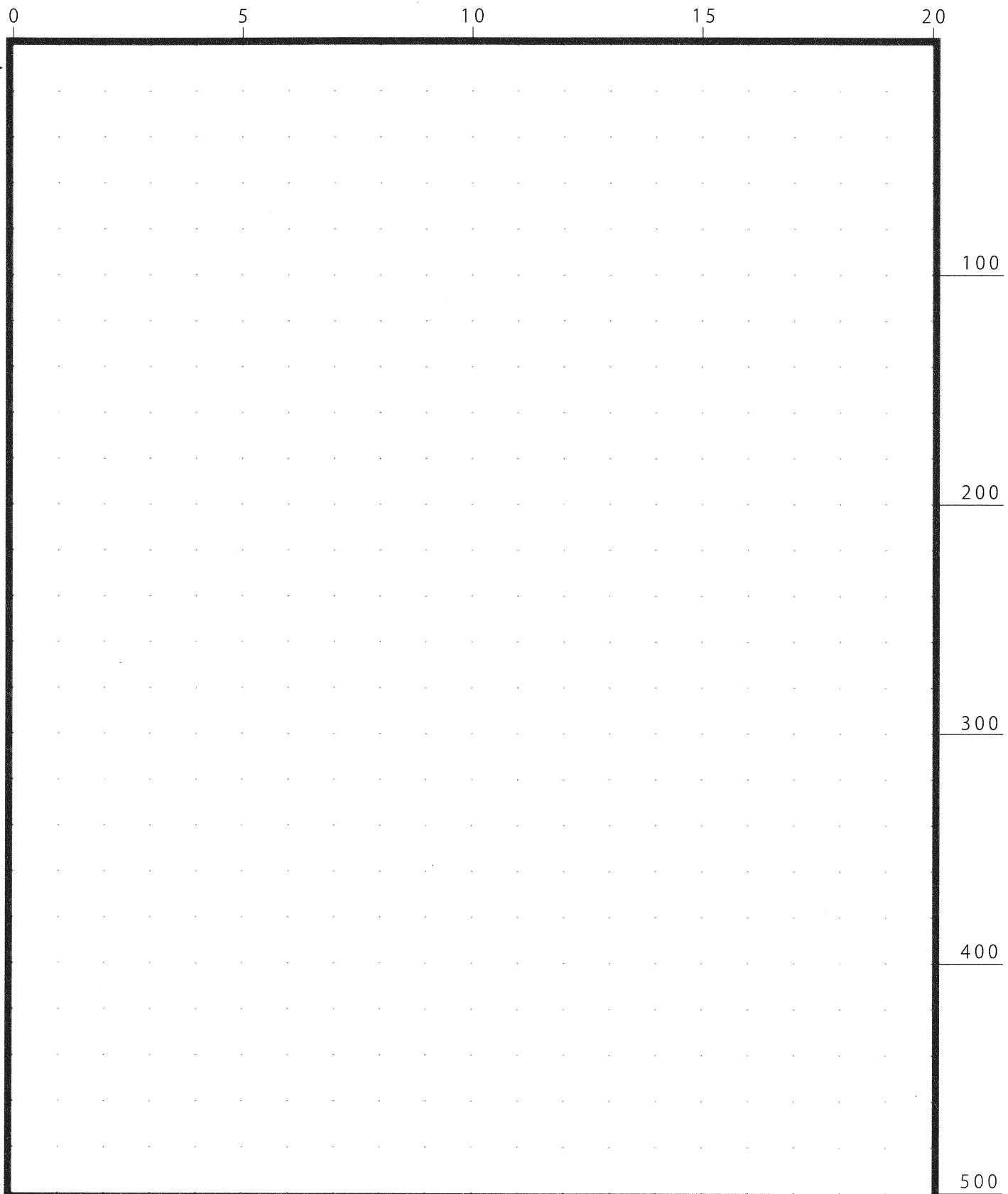
※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。  
<http://www.cao.go.jp/index.html>

採点欄


受験 番号					
氏名					

## 【専門科目・共通問題（必須）】 解答用紙

→  
解答欄



裏面を使用してもよい。

(こちらは裏面です)

